

玉川上水・分水網を世界遺産・未来遺産へ

第1回シンポジウム(2015.5.29)のまとめ

2015.7.23

玉川上水・分水網を世界遺産・未来遺産へ準備会事務局

1. プログラム

第1部 (15:30 開演)

ご挨拶 武藏野市長 岳上 守正

趣旨説明 田畠貞壽 (千葉大学名誉教授・準備会代表)

講演 玉川上水・分水網を世界遺産に

青山 俊 (元東京都副知事・明治大学大学院教授)

講演 未来遺産の考え方と玉川上水・分水網

西村幸夫(東京大学大学院教授)

講演 重要文化的景観地域指定と保全管理

本中 真 (文化庁世界文化遺産アドバイザー)

第2部 (17:15) 開演

市民の保全活動報告

1. 玉川上水リレーランから未来遺産申請へ

鈴木利博 (学び舎江戸・東京ユネスコクラブ)

2. 玉川上水、分水と武藏野の集落・農地

中里 崇亮 (玉川上水を守り育てる武藏野市民の会代表)

今後の活動方針 (事務局)

1. 第1回シンポジウムのまとめ 谷下 雅義 (中央大学教授)

2. 今後の活動方針について

3. 閉会挨拶 (事務局長)

(終了 16:30)

2. 参加者とその構成

参加者 (名簿署名者) は 183 名、講演者 5 名、スタッフ 15 名 (内、中大生 8 名、教員 3 名) 合計 203 名。但し、当日配布資料として用意した 220 部は全て無くなり、当日 15 人から送付依頼がありましたので、実質的には 235 名以上となった。そのうち、約 75% が市民団体及び市民の方であった。お住いは市部 60%、区内 19% であり、東京以外から 21 名の参加者があった。

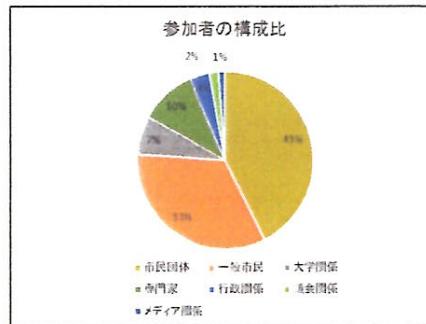


図-1 類型別の参加者数

区分	人数(人)	構成比(%)
市民団体	78	42.6
一般市民	61	33.3
大学関係	13	7.1
専門家	19	10.4
行政関係	7	3.8
議会関係	3	1.6
メディア関係	2	1.1
合計	183	100.0

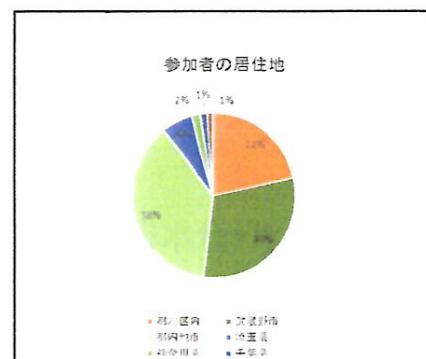


図-2 参加者の居住地

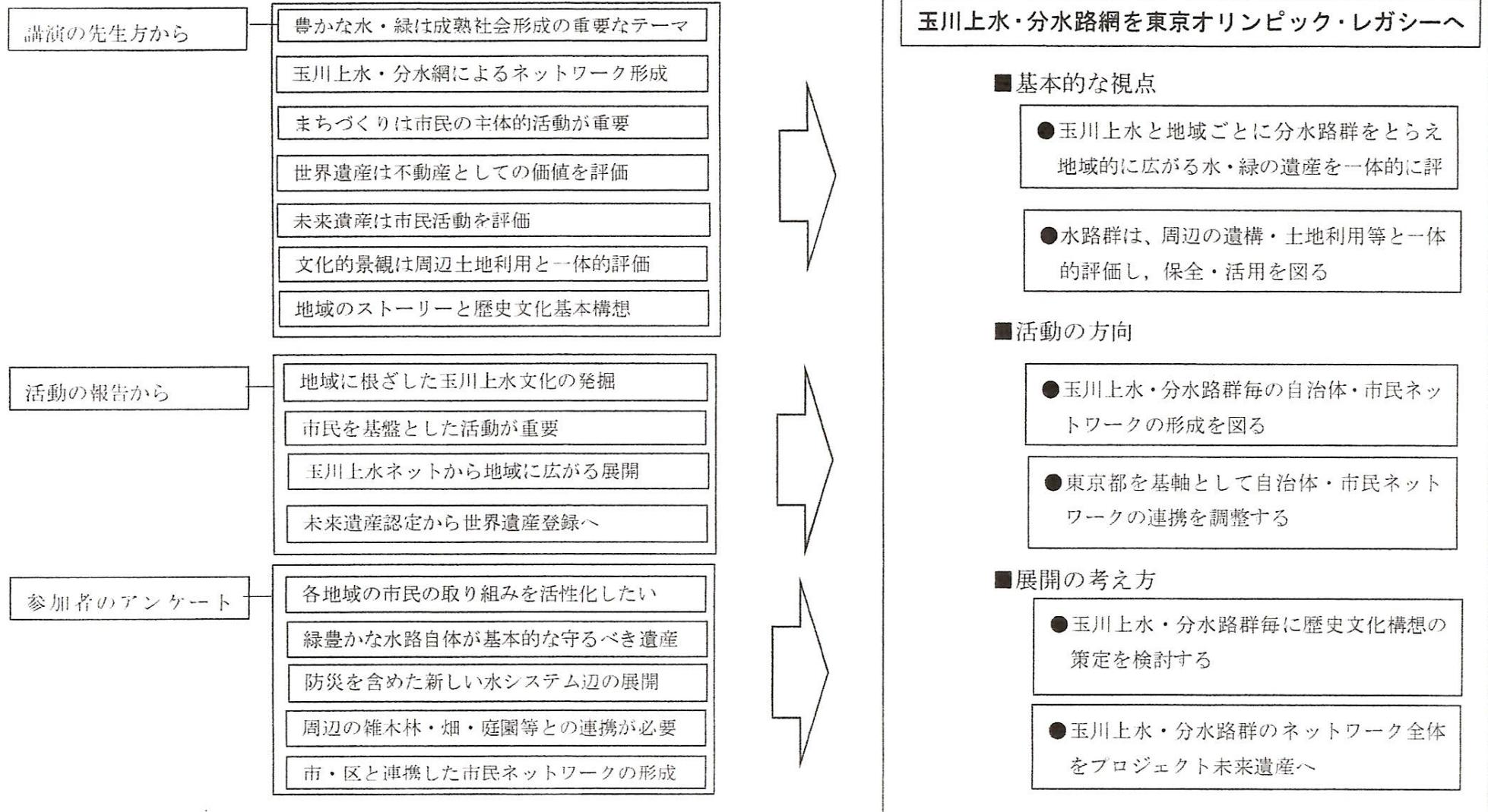
3. 講演・報告者の要旨

	テーマ	講演・報告者	主な内容
講演	1. 玉川上水・分水網を世界遺産に	青山 俊	<p>①玉川上水・分水網に支えられた江戸・東京は世界でも有数の水の都。</p> <p>②玉川上水・分水網は東京近郊の大規模公園・緑地を結ぶ水と緑の回廊を形成。</p> <p>③成熟社会のオリンピックレガシーは“水と緑”が基本的なテーマ</p> <p>④新しい都市社会の形成には市民活動が不可欠</p>
	2. 未来遺産の考え方と玉川上水・分水網	西村 幸夫	<p>①ユネスコの関わる遺産の考え方（世界遺産・エコパーク・記憶資産・無形文化遺産・ジオパーク）</p> <p>②世界遺産（自然・文化）はその不動産としての価値を評価</p> <p>③日本ユネスコ協会のプロジェクト未来遺産は、自然・文化遺産を未来の子どもたちにつなぐ活動を認定</p> <p>④メッセージ性・モデル性・次世代育成・地域活性化・独自性 が評価のポイント</p>
	3. 重要文化的景観地域指定と保全管理	本中 真	<p>①文化財保護法による文化財の六つの類型</p> <p>②平成 16 年に重要文化的景観区域が追加された</p> <p>③生活、産業および風土により形成された景観地を指定</p> <p>④景観法による景観計画と連動して周辺の土地利用も含めた景観の保全整備</p> <p>⑤玉川上水を文化的景観から評価、歴史文化構想の中で地域のストーリー中でとらえることが考えられる</p>
報告	1. 玉川上水、分水と武藏野の集落・農地	中里 崇亮	<p>①地域の生活・産業に絡む分水の細分水の歴史を丁寧に継承していくことが重要</p> <p>②玉川上水・分水網の保護の歴史は市民活動が大きく貢献した。請願・陳情は効果的な手段。</p> <p>③都の中では担当部局が細分化され保全活動が難しく、一元化することが不可欠</p>
	2. 玉川上水リレーウォークから未来遺産申請	鈴木 利博	<p>①玉川上水を世界遺産へという活動は 2001 年からスタート</p> <p>②徐々にその輪が広がり 2011 年には玉川上水ネットを結成され、リレーウォークを開始。マスメディアも着目。2012 年には玉川上水上中流域の市長による玉川上水サミットが開催された。</p> <p>③各地で子どもも参加するホタルの保全活動を通じて、玉川上水の保全活動が展開</p> <p>④近年では東京オリンピックのレガシーを目標としたシンポジウムが、大学・ロータリークラブ等で開催 お互いに連携を図りなり世界遺産を目指す活動が活性化している。</p> <p>⑤シンポジウムを契機として未来遺産認定、世界遺産登録へ結ぶ付けたい</p>

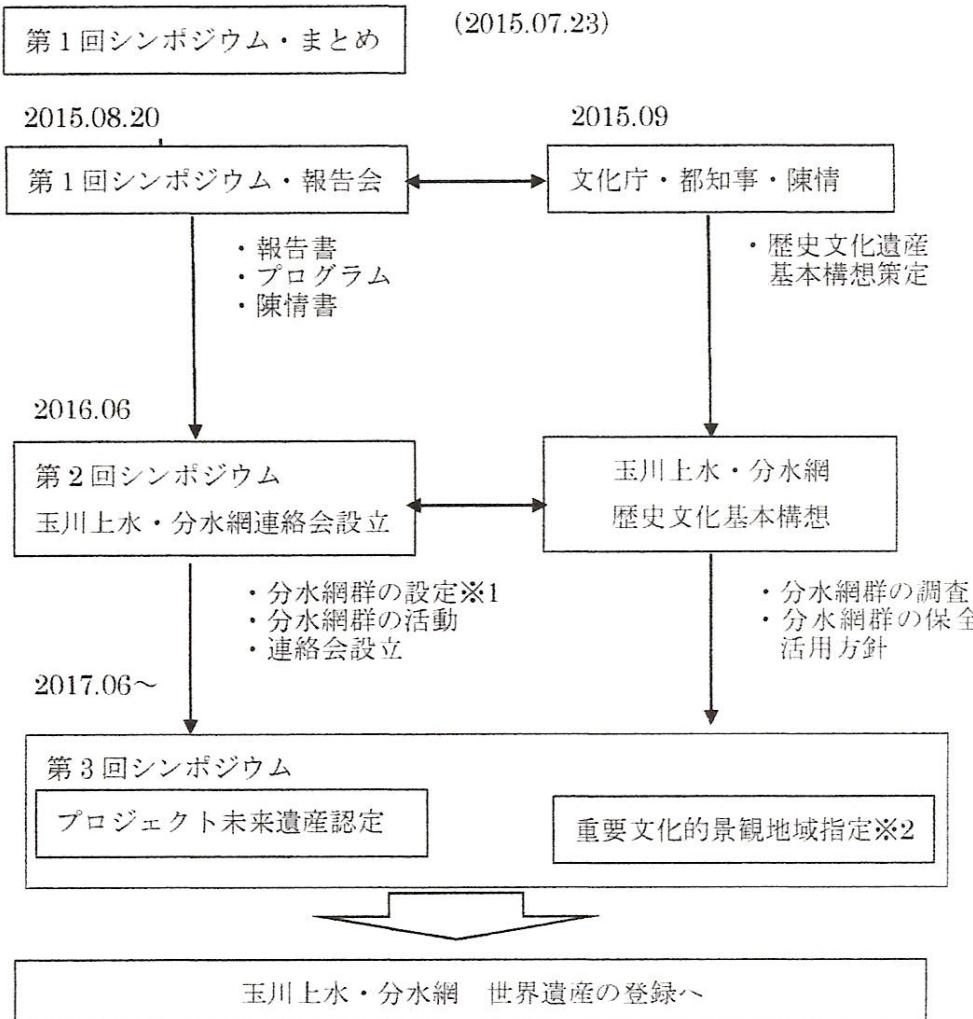
4. 参加者の意見(アンケート回答)

区分	主な内容
1. シンポジウムについて	<p>有意義なご講演ありがとうございました。</p> <p>各講演者の話内容が充実していた。提案内容を実行できるように協力したい。</p> <p>シンポジウムをきっかけに各地域の主体的な活動が深くなることを期待する。</p> <p>ぜひ継続してほしい。</p> <p>玉川上水については、小学校4年の時より今日まで関わってきた、とても有意義な会だった。</p> <p>玉川上水とは何かという共通認識がない。</p> <p>玉川上水の歴史に関しての報告が少なくガッカリでした。</p> <p>「水と緑」にとらわれ過ぎている。分流も含めて玉川上水という意識を持つべきである。</p>
2. 世界遺産について	<p>街の中を縁豊かな水路が通っていることの豊かさ、遺産として残すことは我々の使命。</p> <p>千川上水と関連施設、遺跡等について深く勉強していきたい。</p> <p>「保全」だけでなく人の流れを良くし、文化的・知識的な係りを持つことにより「活用」の方法をさぐるべき。</p> <p>江戸時代の始めの土木技術に驚く、世界遺産とする価値はある。</p>
3. 保全活用方法	<p>玉川上水・分水に下処理水を通水は、大きな成果をもたらしてきたがその限界もある。</p> <p>流量を遠隔で把握しコントロールする、豊水期には地下水を灌漑するシステムを提案したい。</p> <p>防災など新しい水との関わりを加えていくことが世界遺産・未来遺産登録への足がかりになる。</p> <p>台地の分水網と中小河川とを結合した復活計画案をつくることが大切。</p> <p>玉川上水は素掘りの水路世界的に見ても珍しい、素掘りのままの水路を守るべき。</p> <p>千川上水の公園、水路、調整池・バルブ等も遺産の対象に考えたい。</p>
4. 沿川とのかかわり	<p>雑木林は昔の生活と切っても切れない貴重な場所、周辺の環境を合わせて考えることが大切。</p> <p>玉川上水・分水網だけでなく、隣接する雑木林も含めて考えるべき。</p> <p>工業用水、庭園などの池泉にも視点をあて賛同者になってもらうべき。</p> <p>地球温暖化による生物相の変化と玉川上水・分水網との関係についてもっと研究することが望ましい。</p> <p>世界遺産・登録を目指すのであれば景観をこわしかねない道路計画、マンション建設計画などは中止すべき。</p> <p>玉川上水の景観を損ねるような道路計画やマンション建設計画は許可すべきではない</p> <p>玉川上水沿いの建築物の高度制限もと強くすべき</p>
5. 地域住民とのネットワーク	<p>市民が主体にまちを守り継ぐことは大切、市民が積極的に水路の保全・活用に係ることが必要。</p> <p>継続して活動することが必要、報道機関、ネット等の活用、水利権・管理者・管理組合、地域の文化財団などとの連携も不可欠。</p> <p>若年世代のパワーの活用や市・区を超えたネットワークづくりが大切。</p> <p>年輩の方々の記憶等、自治体の史誌の取り組みで水路と地域との関連を調べたらよいのではないか。</p> <p>玉川上水で活動が盛り上がりがあれば、分水である千川上水などにも波及する、各市との交流を深めることが大切。</p> <p>水循環都市東京シンポジウムなど他の活動との連携も必要。</p> <p>市・区の賛同を得てネットワークを作るべき。</p>

5. 世界遺産・未来遺産への展開の方向



6. 玉川上水・分水網の世界遺産・未来遺産へのプログラム案



※1 玉川上水・分水網群設定案

1. 玉川上水幹線
2. 玉川上水上流分水群（熊川用水、拝島用水等）
3. 玉川上水中流南分水群（立川用水、砂川用水、国分寺用水等）
4. 野火止用水
5. 玉川上水中流北分水群（小川分水、小平分水、田無用水等）
6. 玉川上水下流南分水群（鳥山分水、三田用水、品川用水等）
7. 千川用水・上水

※2 重要な文化的景観地域指定候補地（案）

1. 羽村堰・熊川上水周辺地域
2. 野火止用水・新座周辺地域
3. 小金井公園周辺地域
4. 国分寺崖線周辺地域
5. 千川上水周辺地域
6. 四谷大木戸周辺地域